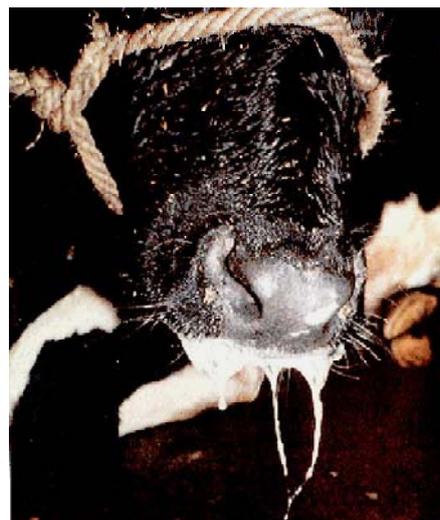


## 口蹄疫 とは

1 原因（病原体）  
口蹄疫ウイルス (Picornaviridae Aphthovirus)

2 感受性動物  
牛、水牛、めん羊、山羊、豚、しか、  
いのしし等

3 症状  
突然40～41℃の発熱、元気消失に陥ると同時に多量のよだれがみられ、口、蹄、乳頭等に水疱(水ぶくれ)を形成し、足を引きずる症状が見られる。



【多量のよだれ】

出典：動物衛生研究所

4 発生状況

(1) 国内：

明治41年(1908年) 東京、神奈川、兵庫、新潟 522頭

平成12年(2000年) 宮崎(3～4月：3戸)，北海道(5月：1戸)

患畜・疑似患畜 740頭 [92年振りの発生]

\*) 日本は平成12年9月27日に清浄国に復帰。

(2) 海外：オセアニアと北米以外の世界中で発生が見られる。

5 診断

(1) 抗体の検出を行う。

(2) 水疱材料等からのウイルス分離を行う。

6 予防法

我が国では、多くの諸外国と同様に、原則として感染動物の摘発ととう汰による清浄化を実施。また、緊急接種用の不活化ワクチンの備蓄、水際での厳重な検疫を実施。

なお、本病の常在国等では不活化ワクチンが使用されている。しかし、ワクチン接種動物は、①感染を完全に防御できず、②感染動物はワクチン接種動物との識別が難しいことから、本病を見逃し、感染源となる可能性がある。

7 治療法

(1) なし

(2) 発生した場合は、家畜伝染病予防法に基づき、まん延防止のため家畜の所有者によると殺が義務付けられている。